

レコード盤の反りに起因するサブソニックノイズへの対処

滅多にないことですが、ジャズの米国再発盤で状態が非常に悪いものを購入してしまうことがあります。

そもそも米国の再発盤レーベルの大手という OJC、Jazz Track、Jazz Wax Records などですが、これらのレーベルで状態がひどい盤にはまず出くわしたことはありません。しかし曲者はレーベル名：Blue Note Records です。何故かオマケの CD がセットになっているのですぐ判別出来ます。

手元にこのレーベルの再発盤が 3 枚ありますが、どれもよくはありません。極め付けは LEE MORGAN の “THE SIDEWINDER” です。円いはずのレコード盤が円くはないし（さすがに偏心はしていないようですが）、特に外周部が平らではありません。

サブシステムの Rigid/Float+ネルソンホールド+DL-103 で再生すると ELAC BS243LE のウーファーが前後にユラユラと盛大にふらつきます。見ていて気持ちが悪いし音質にも悪影響がありそうです。

そこでどのような対策があるのか検討してみました。

サブシステムのデノン製プリメインアンプにはサブソニックフィルターがありません。ちなみに昔のプリメインアンプとは違い現行のプリメインアンプではフォノイコライザーを装備していてもサブソニックフィルターを持たない機種が殆どです。デノン、マランツのプリメインでは皆無、ラックスマンのプリメインの場合は機種によってはサブソニックフィルターを持つものがあります。アキュフェーズの場合はオプションのアナログボードにフィルターが組み込まれています。

という次第でサブソニックフィルターを持つフォノイコライザーにはどのようなものがあるのか？ざっと調べてみました。

ートライオード TRV-EQ4SE (真空管式) ¥89,250

ローカットフィルターは 15Hz、18dB/oct

ーフェーズメーション EA-3II ¥204,750 (税込)

アクティブ型サブソニックフィルターはカットオフ周波数 20Hz、40Hz、18dB/oct

ーアキュフェーズ C-27 ¥525,000 (税込)

サブソニックフィルターは 10Hz、12dB/oct

*CEC の PH53 ¥58,200 はバランス接続が基本なので除外。

しかしこのサブソニックフィルターの効果はどのようなものなのか？

幸いメインシステムのプリアンプ C-2810 (+オプションイコライザーユニット AD-2810) には10Hz以下を18dB/octでカットするサブソニックフィルターが元々付いていますので、こちらで試してみることにしました。

カートリッジシステムはサブシステムの場合と同じネルソンホールド+DL-103 とします。

結果ですが、フィルターOFFの場合、相当頑丈なはずの DS-10000 のウーファーがかなり前後にフラフラ揺れています。ウーム・・・。

フィルターを ON にすると揺れはかなり治まります。しかし皆無とはゆきません。

18dB/oct というのは相当強烈な減衰特性です。サブソニックフィルターが無い場合はウーファーにかなりの負荷が掛かっていることがよく分かりました。

さて、対策をどうするか？です。

- 1 まずサブソニックフィルターが無いサブシステム側では、ステレオカートリッジの DL-103 ではなくモノラルカートリッジの AT33MONO を起用し、モノラル盤の再生をメインとします。一方のメインシステムはステレオ盤の再生がメインとなります。ステレオ盤の場合、針先は上下左右に振動してステレオ信号を拾いますが、モノラル盤では針先は左右に振動するだけなのでサブソニックに対してはより安全です。なお、新規に上記のフォノイコライザーを導入することは費用的な問題もありますし、機器をこれ以上増やすことは如何なものかという理由で見送ります。

- 2 レコード盤の買い替え

記録を調べてみると、この問題だらけの盤は

LP Record (2008/10/22)

ディスク枚数：2 (オマケの CD があるからです)

レーベル： Blue Note Records

ASIN： B001G5ZNFK

EAH： 0724349533219

で、これは現在も Amazon で販売されているものと全く同じです。

そこで次のレコード盤を Amazon で手配しました。

LP Record (2008/4/22)

ディスク枚数：1

レーベル： Blue Note -Jdc-

ASIN： B0018CWVUG

EAH： 0093652323917

こちらの方が 300 円程高くて約 2 千円ですが、新規にフォノイコライザーを購入するよりはるかにマシというものです。

なお「Jdc」(Jdc Records?) はカリフォルニアで設立されたディスコ専門のレーベルのようです。

Blue Note といえばジャズレーベルの名門中の名門です。それがどうしてこのような盤を世の中に送り出すのか? 全く残念なことだと思います。

Blue Note Records の創設者アルフレッド・ライオンは制作したレコードを出荷前に 1 枚 1 枚入念に自らチェックしたそうです。

さて、不幸にしてサブソニックノイズに遭遇してしまった場合、ケース・バイ・ケースで何らかの対策を講じた方が無難だと思います。

大切な機器を破損してからでは遅いということもありますし、何より音質面での悪影響がありそうだからです。

以上

[後日談] 121021

Amazon で手配した盤が届いたので早速「disco-antistat」で洗浄クリーニングし演奏してみました。

やはり外周部に多少うねりはありますが、サブソニックノイズは大幅に減少。そのせいもあってか再生音がクリヤーになった印象でした。

それにしても、この 2 種類の再発盤は一体何がどう違うのでしょうか?

ジャケット表面・裏面、レーベル面、レコード盤面で気が付いた部分をメモ書きしておきます:

1 レーベル : Blue Note Records

ージャケット表面には「84157 STEREO 云々」のロゴマーク

ージャケット裏面の品番は「Blue Note BST-84157」

ージャケット裏面に「BLUE NOTE STEREO」のロゴマークあり

ー「Manufactured by The Blue Note Label Group」と記載

ー住所は「150 Fifth Avenue, New York」

ー盤面 A のレーベル面は「BST 84157」とロゴのみ

下記の「microgroove 云々」は記載されていません

ー盤面 A の手書文字は「0724349533219-A GI RM S-66915」

また「MASTERED BY CAPITOL」の刻印があります

2 レーベル : Blue Note -Jdc-

- ジャケット表面のロゴマークは 4157 で STEREO という記載はありません
上記 1 のロゴマークから「8」と「STEREO」を省いたような何とも奇妙なロゴ
マークです
- ジャケット裏面の品番は「Blue Note 4157」
- ジャケット裏面には上記 1 のロゴマークは無く、その代わりに単に「STEREO」
と記載されています
- またマニファクチャラーの記載は無く、その代わりに「For Complete Catalog
Write to BLUE NOTE RECORDINGS INC.」となっています
- 住所は「304 Park Ave. South, New York」です
- 盤面 A のレーベル面には「33 1/3 microgroove LONG PLAYING」と記載され
「BLP (BST ではない!) 4157 Side 1(BN4157-A)」となっています
- 盤面 A の手書文字は「3977-BLN 4157-1(A) S-63920 サイン (読めない)」です
CAPITOL の刻印はありません

以上ですが、この 2 種類のレコードを演奏して調べると、後者のジャケット裏面の
「STEREO」は間違い、これはモノラル録音盤です。

このアルバムが録音・制作されたのは 1963 年、モノラル録音盤とステレオ録音盤の
両方が存在したわけです。

音質については、当時はまだステレオ録音技術が未熟だったので、モノラル録音盤
に軍配が上がります。

またレーベル面については後者の方がオリジナルに近いようです。

- 了 -